

# 平成29年度 作物技術普及情報 第16号

## 【麦の播種作業について】

### 1、適期播種

松本地区のような寒冷地での麦作は、12月中旬までに必要な生育量（葉数4～5葉・茎数3本／株以上）を確保して、耐寒・耐雪性を獲得することが重要です。

播種後の気温が暖かい年でも、11月中旬以降の播種では越冬前の茎数確保が不十分になります（図をご覧ください）。

茎数確保が不十分な場合、越冬期間中に著しい低温になると、寒害・凍上害等の越冬障害を受け、茎数・穂数不足で減収する可能性が高くなります。

越冬前の生育量確保のために、計画的な作業で適期播種をお願いします。

また播種が早すぎると生育過剰となり、肥切れと寒さにより、著しい葉の黄化や葉先枯れを生じることがあります。特に標高の低い圃場の場合、早すぎる播種は避けるようにお願いします。

#### ★播種時期の目安★

標高500～600m 10月下旬～11月初旬

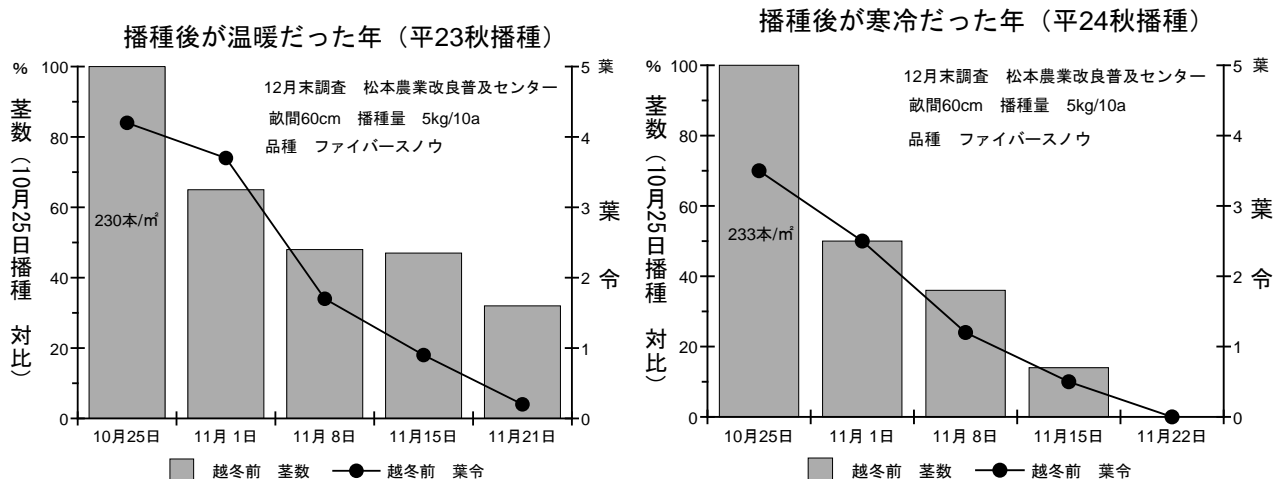
標高600～700m 10月中旬～10月下旬

#### ★播種量の目安★

10月播種（標準）：8kg 11月播種（晩播）：10kg

注）出芽が遅れるので、極端な深播にならないようご注意ください  
やむを得ず晩播になった場合は播種量を増量してください  
（但し厚播には注意）。

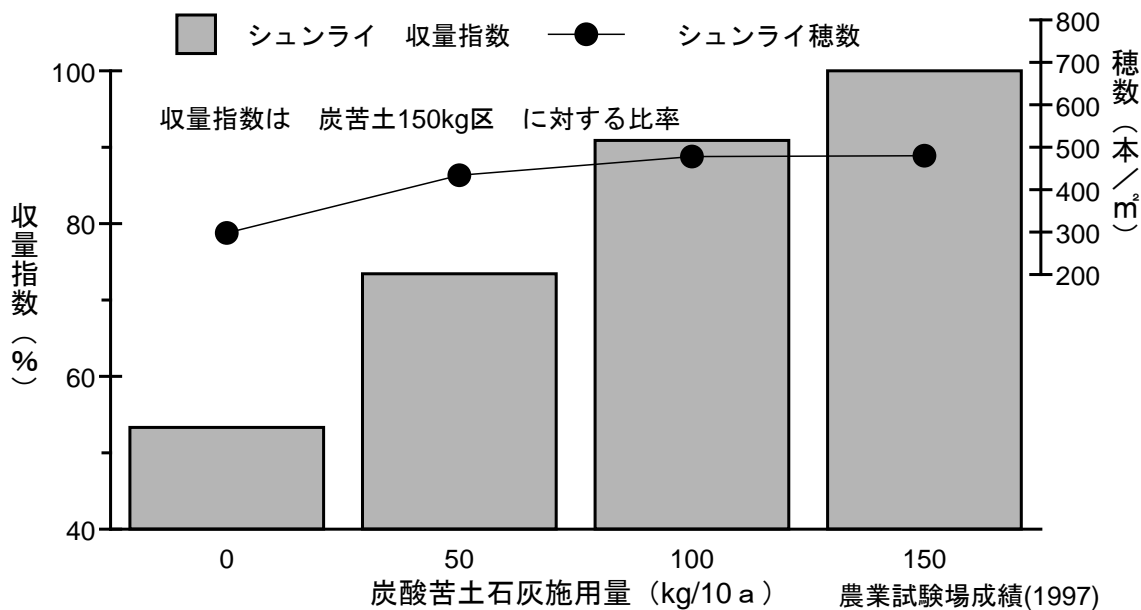
(図) 播種時期が越冬前生育(茎数・葉令)に及ぼす影響(温暖年・寒冷年)



## 2、酸度矯正

麦は酸性土壌では生育が劣り苦土欠乏も起こしやすい作物です。酸度矯正不足で、十分な根量および根の活性が得られないと、麦の生長に必要な肥料分が十分に得られず、減収するばかりではなく、麦の品質低下(登熟不良による細麦化、容積重やタンパク質含有量等の低下)を招きます。

水田跡に麦を栽培する場合は、炭酸苦土石灰などを施用して、pH6~6.5程度に酸度矯正を行うようお願いします。



### 3、耕起・整地について

碎土、整地が悪いと出芽や生育が劣ります。また、播種後土壌処理除草剤の効果を引き出すには、除草剤処理時の碎土状況（粗いと効果が劣る）や土壌水分状況（乾きすぎだと効果劣る）が重要なポイントになりますので、表土が細かくなるように丁寧をお願いします。

除草剤処理後2週間位で圃場を観察して除草剤の効果を確認し、残草状況によっては、茎葉処理剤の処理をご検討ください。

### 4、排水対策の徹底

圃場周囲には必ず排水溝を設けてください。排水溝はただ掘るだけでなく、水尻につながっているか、圃場外に確実に排水ができているか確認をお願いします。